

経済指標

1 経済指標で見る「地域経済情勢」

◆ 日本経済(内閣府「月例経済報告」[2017年11月]) ◆

景気は、緩やかな回復基調が続いている

個人消費

- ・緩やかに持ち直している(変更なし)

企業活動

- ・生産は持ち直している(変更なし)
- ・輸出は持ち直している(変更なし)
- ・業況判断は改善している(変更なし)
- ・設備投資は持ち直している(変更なし)

※()内は、8月以降の判断変化

◆ 和歌山県経済 ◆

個人消費、企業活動ともに一部で持ち直しの動きが鮮明になるも、弱さも見られ、和歌山県経済は持ち直しをうかがう状況が続いている

個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額(10月、全店)は、2か月連続で前年を下回った。週末の2度の台風による来店客数減少の影響が大きいと考えられる
- ・新車販売台数(10月)は、大手メーカーによる無資格検査問題の影響もあり、1年ぶりに前年を下回った

企業活動

- ・鉱工業生産指数(9月、季節調整値)は、大きく下降するも、高水準
- ・TDB 景気 DI(10月)は、3か月連続で上昇し、2017年の最高値を更新

◆ 大阪府経済 ◆

一部に弱さも見られるが
企業活動を中心に、大阪府経済は回復の動きが加速している

個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額(10月、全店)は、7か月連続で前年を上回った
- ・新設住宅着工戸数(1~10月累計)は、前年比0.4%の増加

企業活動

- ・TDB 景気 DI(10月)は、5か月連続で上昇し、消費増税以降の最高値を更新
- ・鉱工業生産指数(9月、季節調整値)は、再び持ち直している
- ・公共工事請負金額(4~10月累計)は、前年比28.4%の減少

経済指標

2 経済指標で見る「和歌山県経済」

個人消費、企業活動ともに一部で持ち直しの動きが鮮明になるも、弱さも見られ、和歌山県経済は持ち直しをうかがう状況が続いている

和歌山県に関する経済指標の概況（10月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（10月、全店）は、2か月連続で前年を下回った。週末の2度の台風による来店客数減少の影響が大きいと考えられる。
- 新車販売台数（10月）は、大手メーカーによる無資格検査問題の影響もあり、1年ぶりに前年を下回った。
- 新設住宅着工戸数（1～10月累計）は、前年比4.3%の減少。

《企業活動》

- 鉱工業生産指数（9月、季節調整値）は、大きく下降するも、高水準。
- TDB景気DI（10月）は、3か月連続で上昇し、2017年の最高値を更新。
- 公共工事請負金額（4～10月累計）は、前年比19.8%の減少。

《その他》

- 消費者物価指数（10月、和歌山市）は、コアコアCPIに上昇傾向が見られる。
- 有効求人倍率（10月）は、4か月ぶりに上昇。求人活動の増勢には一服感。

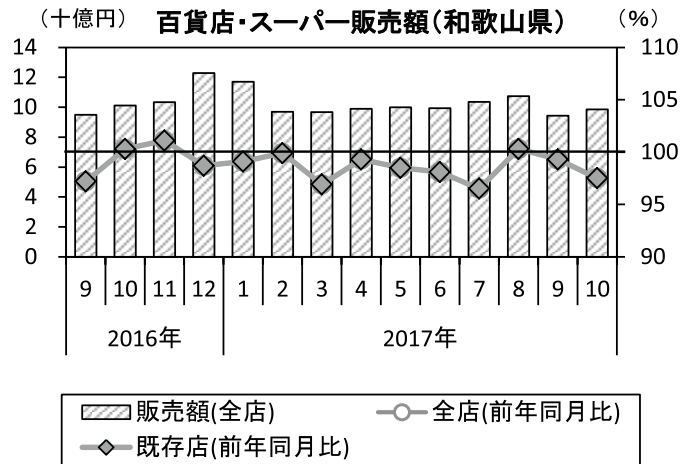
和歌山県の経済指標の概況変化(前年同月との比較 ※一部は前月比較)

| | | 2016年 | | | | 2017年 | | | | | | | | | |
|------|--------------------------|-------|----|----|----|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| | | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 個人消費 | 百貨店・スーパー販売額(全店) | ● | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | ● |
| | 新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む) | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| | 新設住宅着工戸数 | ○ | ○ | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ○ | ● | ● |
| | 家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯) | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | ○ |
| 企業活動 | 鉱工業生産指数 ※前月比 | ● | ● | ○ | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | ○ | ● | |
| | 公共工事請負金額 | ○ | ○ | ● | ● | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | |
| | TDB景気DI ※前月比 | ● | ○ | ○ | ● | ● | ○ | ● | ○ | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ |
| 物価 | 消費者物価(コアコアCPI、和歌山市) ※前月比 | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | - | ○ | - | - | ● | ○ | - | ○ |
| 雇用 | 有効求人倍率 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

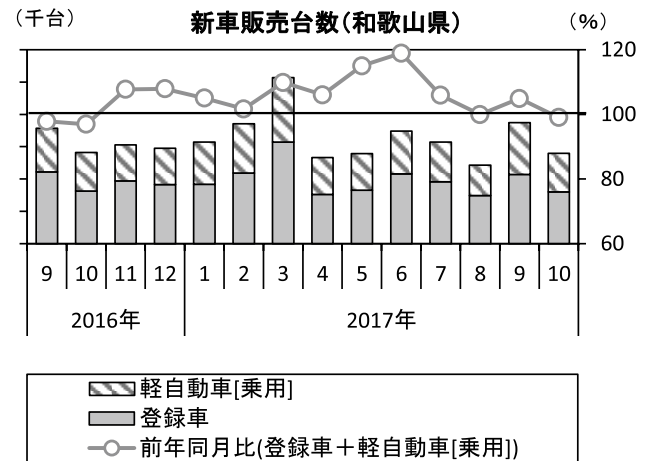
百貨店・スーパー販売額（全店、10月）は2か月連続で前年を下回った。週末の2度の台風で来店客が減少したことが影響したと考えられる。また、野菜等の生鮮食品価格が前年に比べて低下していることも販売額減少の一因となった。その一方で、9月までの値ながら、バッグなどの「身の回り品」や化粧品、宝石・時計等の「その他の商品」については販売額に増加傾向が見られる。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

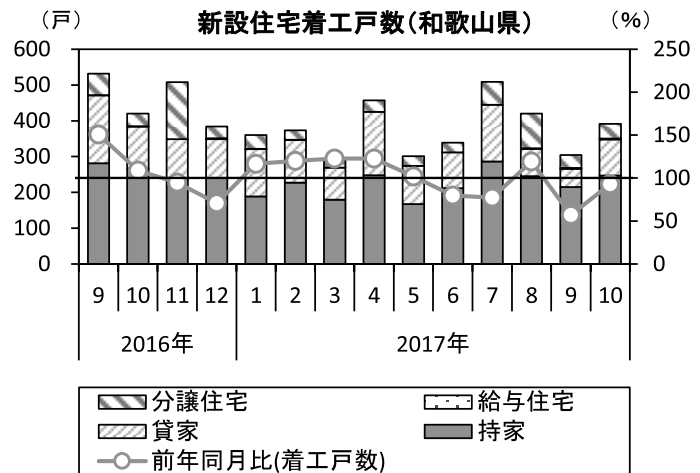
新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、10月）は、1年ぶりに前年を下回った。大手メーカーによる無資格検査問題もあり登録車が前年比1.7%減となった。登録車の減少は3か月連続。11月以降についても、無資格検査問題による悪影響が懸念され、登録台数の減少が予想される。また、持ち直しの動きが見られていた軽自動車（乗用）についても、8か月ぶりに前年を下回った。新車販売台数は前年末以降、持ち直しの動きが見られていたが、ここにきて弱含む状況となっている。



(資料)一般社団法人全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに和歌山県自動車販売協会資料

新設住宅着工戸数

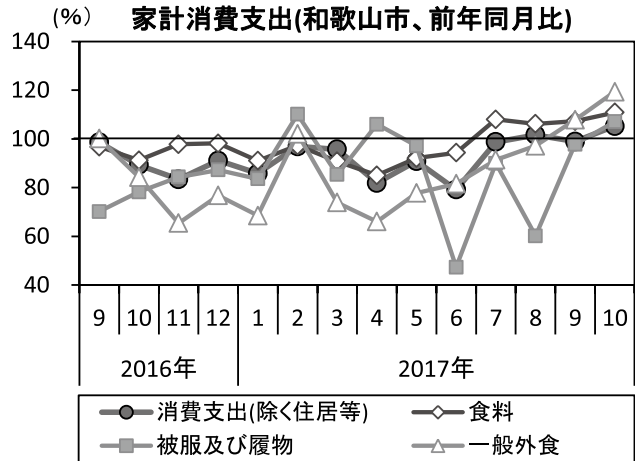
新設住宅着工戸数（10月）は2か月連続で前年を下回った。1～10月累計の着工戸数は、「分譲住宅」、「持家」の減少もあり、前年比4.3%減となっている。前年後半以降、持ち直しの動きが見られていた「持家」の着工戸数だが、9月以降は2か月連続で前年を下回っている。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

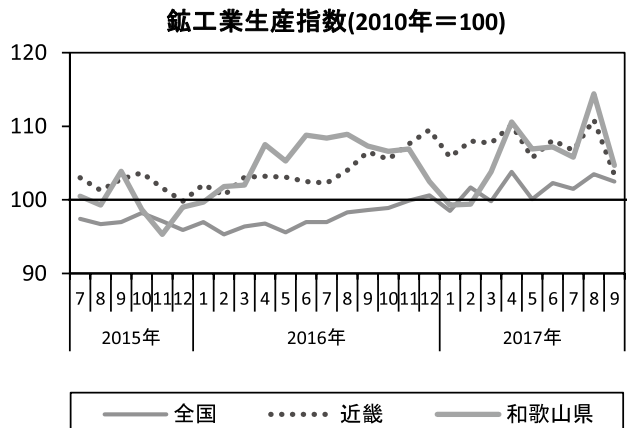
家計消費支出（除く住居等、10月）は、2か月ぶりに前年を上回った。前年後半以降、家計消費支出は前年を大きく下回る状況が続いていたが、7月以降は状況に変化が見られる。特に、「一般外食」を含む「食料」への支出は4か月連続で前年を上回っており、持ち直しの兆しが見られる。



(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

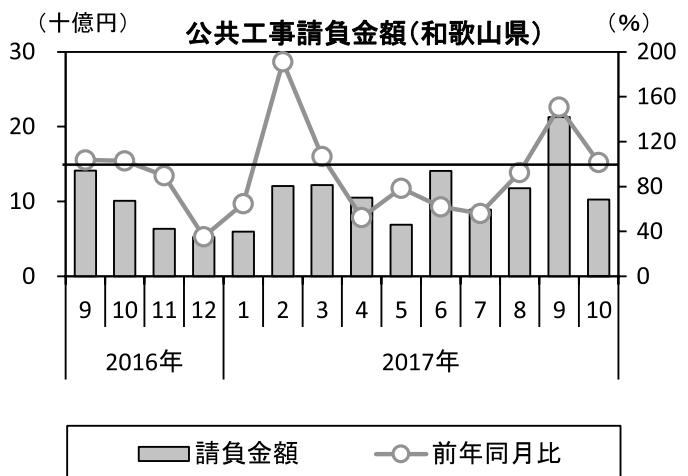
8月に2008年以降の最高値を更新していた鉱工業生産指数だが、9月は10ポイント近い下降となった。ただし、はん用機械における生産指数の大幅下降が大きな要因であり、生産用機械、電気機械等は依然として高い水準で推移している。また、低調な推移となっている鉄鋼についても、約3年前の水準まで回復しており、状況に変化が見られる。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」和歌山県調査統計課ウェブサイト

公共工事請負金額

公共工事請負金額（10月）は、2か月連続で前年を上回った。ただし、4～10月累計の請負金額は前年比19.8%減となっており、減少幅は依然として大きい。地区別では、和歌山市を中心とした和歌山地区、岩出地区、新宮地区で請負金額が大きく減少している。串本地区については、前年度は請負金額が大きく減少したが、今年度については増加している。工事種類別では、土木、建築で請負金額が大きく減少する一方で、電気、管工事では大きく増加している。



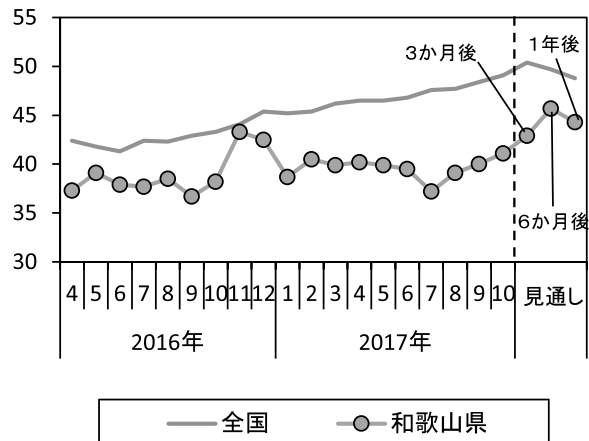
(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

10月の景気DIは3か月連続で上昇し、2017年の最高値を更新した。運輸業の景気DIが大きく上昇しており、製造業も比較的高い水準で推移している。卸売業の景気DIが下降傾向にある点は懸念されるが、その他の業種については、3か月後以降の見通しにおいても、景気DIは持ち直す模様。

TDB景気DI (判断の分れ目は50)



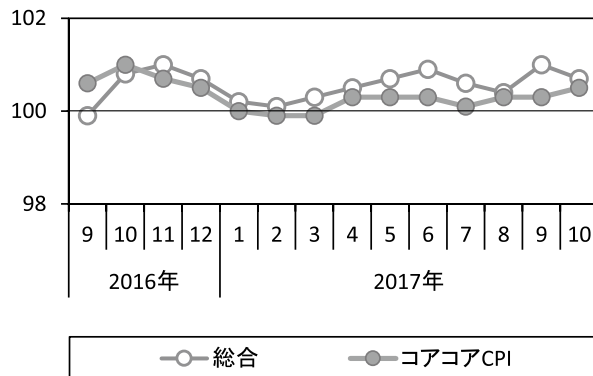
(資料) (株)帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数（和歌山市、10月）は総合が2か月ぶりに下降となった。エネルギー価格の上昇に伴い、年初より総合指数は上昇基調にあったが、ここに来て一服感が見られる。生鮮食品を中心に食料品価格が下落し、家庭用耐久財価格も下落していることが要因となっている。ただし、コアコアCPIについては上昇傾向が見られる。

今後については、原油価格の上昇に伴い、エネルギー価格の上昇が予想される。

消費者物価指数(和歌山市、2015年=100)



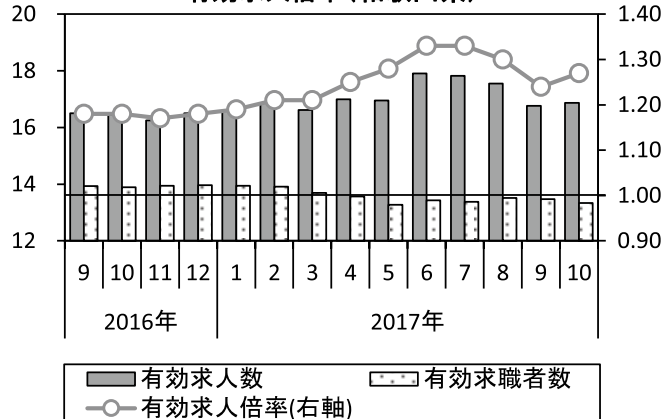
(注)コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料)総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率（10月）は4か月ぶりに上昇に転じた。求人倍率は6月に1.33倍まで上昇し、26年ぶりの高水準となっていたが、その後は有効求人数の減少もあり、2か月連続で下落していた。

10月については、有効求職者数が減少する一方で、有効求人数が再び増加した結果、求人倍率は0.03ポイント上昇した。ただし、新規求人数は4か月連続で減少しており、求人活動の増勢には一服感が見られる。

(千人) 有効求人倍率(和歌山県)



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」

経済指標

3 経済指標で見る「大阪府経済」

一部に弱さも見られるが
企業活動を中心に、大阪府経済は回復の動きが加速している

大阪府に関する経済指標の概況（10月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（10月、全店）は、7か月連続で前年を上回った。
- 新設住宅着工戸数（1～10月累計）は、前年比0.4%の増加。
- 新車販売台数（10月）は、大手メーカーによる無資格検査問題の影響もあり、1年3か月ぶりに前年を下回った。

《企業活動》

- TDB景気DI（10月）は、5か月連続で上昇し、消費増税以降の最高値を更新。
- 鉱工業生産指数（9月、季節調整値）は、再び持ち直している。
- 公共工事請負金額（4～10月累計）は、前年比28.4%の減少。

《その他》

- 消費者物価指数（10月、大阪市）は、コアコアCPIが横ばいで推移。
- 有効求人倍率（10月）は、1.66倍と高水準だが、充足率は低く、労働市場でのミスマッチが懸念される。

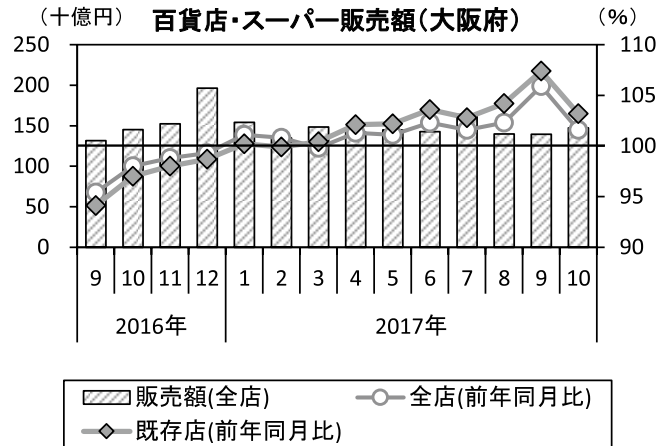
大阪府の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

| | | 2016年 | | | | 2017年 | | | | | | | | | |
|------|-------------------------|-------|----|----|----|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| | | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 個人消費 | 百貨店・スーパー販売額(全店) | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| | 新設住宅着工戸数 | ● | ● | ○ | ● | ○ | ● | ○ | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ● |
| 企業活動 | 鉱工業生産指数 ※前月比 | ● | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | ○ | ● | ○ | ○ | ● | ○ | |
| | 公共工事請負金額 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | TDB景気DI ※前月比 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 物価 | 消費者物価(コアコアCPI、大阪市) ※前月比 | ○ | ○ | - | ● | ● | - | ● | ○ | ○ | ● | ● | ○ | ● | ○ |
| 雇用 | 有効求人倍率 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

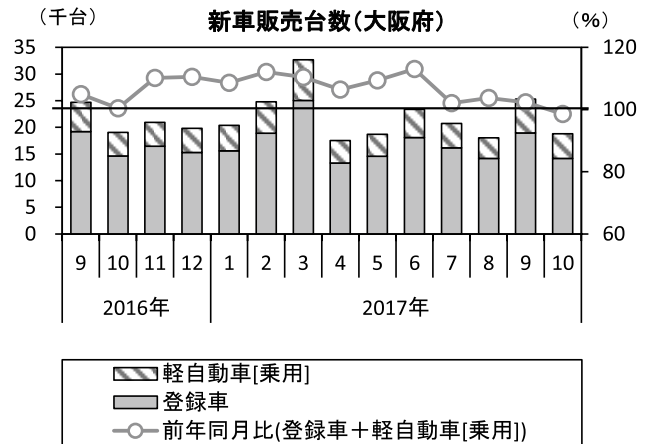
百貨店・スーパー販売額（全店、10月）は前年比1.6%の増加。販売額が前年を上回るのは7か月連続。全国では、週末の2度の台風で来店客数が減少し、販売額が前年を下回ったが、大阪府については、訪日外国人客による免税品購入が好調であることから、全体の販売額も前年を上回った。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

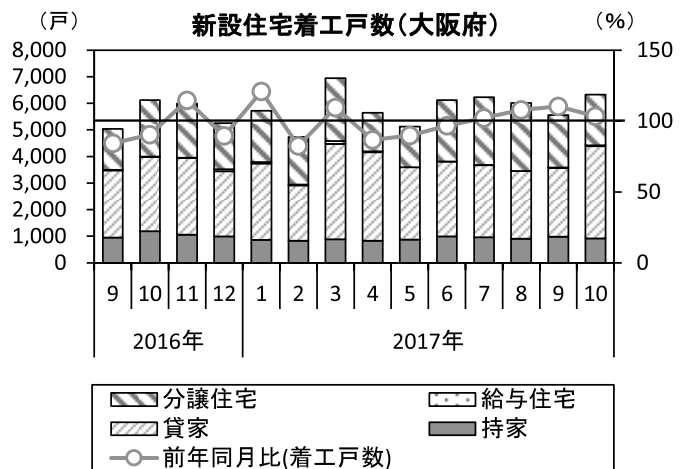
新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、10月）は1年3か月ぶりに前年を下回った。大手メーカーによる無資格検査問題もあり、登録車の登録台数が前年比3.3%減となった。軽自動車（乗用）の販売台数は12か月連続で前年を上回っている。11月以降についても、無資格検査問題による悪影響が懸念され、販売台数は弱含むことが予想される。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに東京自動車販売協会「新車販売台数(登録車)」

新設住宅着工戸数

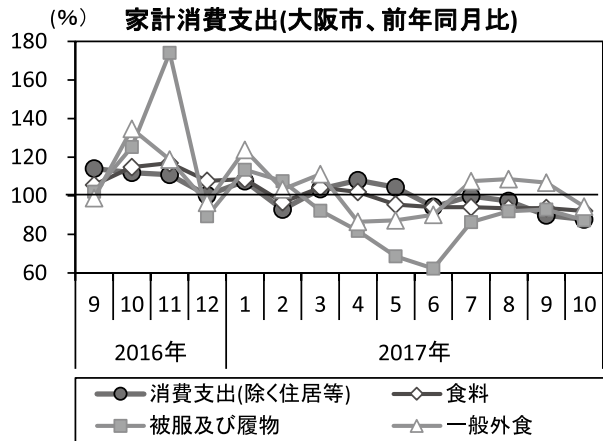
新設住宅着工戸数（10月）は、4か月連続で前年を上回った。1～10月の累計着工戸数については、前年比0.4%増となっており、直近5年間では最も多い着工戸数となっている。「分譲住宅」、「持家」は減少しているが、「貸家」は前年比8.0%増となっており、全体の着工戸数の増加に寄与している。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、10月）は5か月連続で前年を下回った。肉類、野菜等の「食料」支出が6か月連続で前年を下回った。また、「被服及び履物」についても8か月連続で支出が前年を下回った。

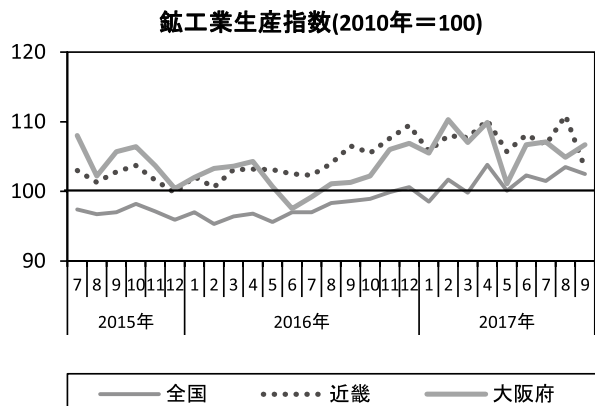


(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

鉱工業生産指数（9月）は上昇。5月に大きく落ち込んだ生産指数だが、その後は再び持ち直している。建設機械や各種製造装置等の生産用機械、電子部品・デバイス、輸送機械（部品中心）、鉄鋼、食料品等で生産指数が上昇しており、全体の持ち直しに寄与している。

今後については、近畿地区の輸出動向が好調であることから、大阪府内の生産活動は、引き続き持ち直すことが期待される。

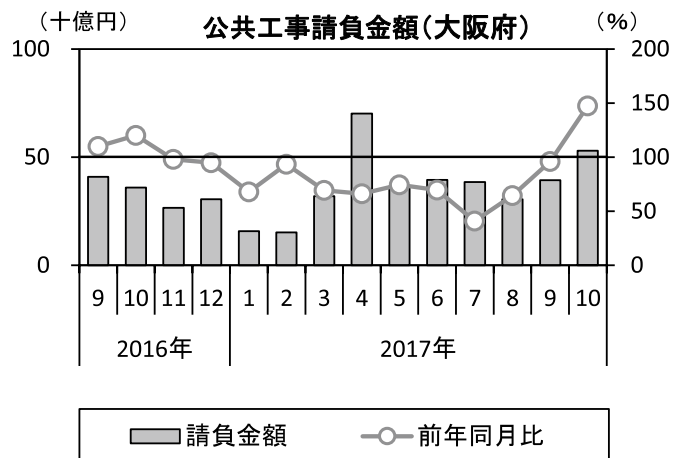


(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
大阪府「大阪の工業動向」

公共工事請負金額

公共工事請負金額（10月）は、1年ぶりに前年を上回った。ただし、4～10月累計の請負金額は前年比28.4%減となっている。

大阪府内の公共工事請負金額は前年度までは増加基調だったが、今年度に入り減少傾向が見られる。



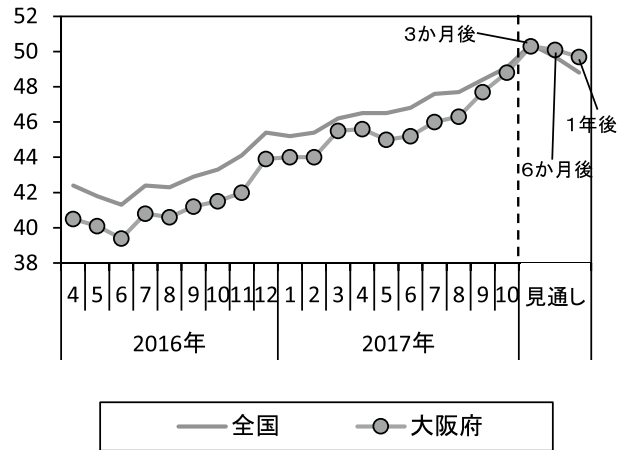
(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

景気DI (10月) は5か月連続で上昇し、2014年4月の消費増税以降の最高値を更新した。製造業、卸売業、運輸・倉庫、サービス業、建設業など幅広い業種で景気DIが持ち直している。ただし、3か月後以降の見通しについては、製造業、建設業に慎重さが見られ、全体でも弱含む模様。

TDB景気DI (判断の分れ目は50)



(資料) (株)帝国データバンク

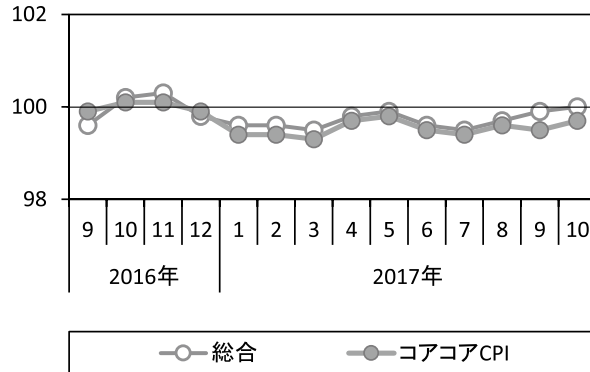
消費者物価指数

消費者物価指数 (大阪市、10月) は総合及びコアコアCPIがともに前月から上昇した。

5~7月頃は、生鮮食品を中心に食料品価格が下落した上、電気代が下落したことから、総合指数、コアコアCPIともに下落傾向にあった。ただし、その後は、食料品価格、電気代、ガス代が再び上昇しており、総合指数には上昇傾向が見られる。コアコアCPIについては、ほぼ横ばいで推移している。

今後については、原油価格の上昇に伴い、エネルギー価格の上昇が予想される。

消費者物価指数(大阪市、2015年=100)



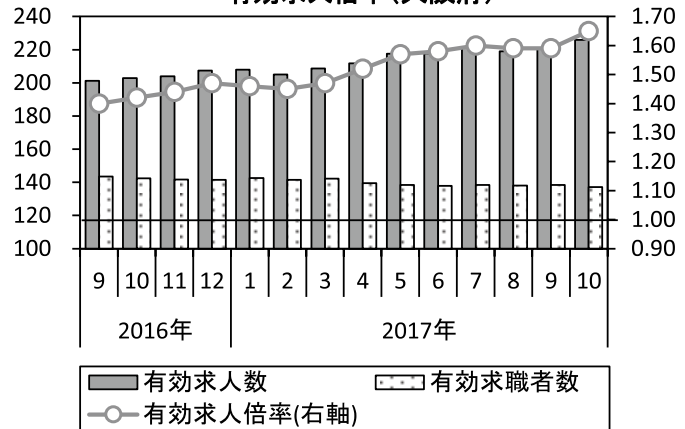
(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料) 総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率 (10月) は上昇し、1.65倍となった。求人倍率が1.6倍台となるのは、1974年9月以降では初めて。有効求人数の増加が続く一方で、有効求職者数は減少が続いている。新規求人数については、情報通信業、運輸業、宿泊業・飲食業、医療・福祉など幅広い業種で増加している。

ただし、事業者による人材確保は難しくなっており、充足率 (求人に対して人員が補充された割合) の低下が続いている。

有効求人倍率(大阪府)



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」